

Event Calendar at Ochanomizu 2016

講演会 第10回 リーダーシップ論

- ◇日時：2016年7月9日（土）14:00～16:00
- ◇講師：山口一男氏（シカゴ大学 教授）
- ◇講演題目：『ダイバーシティ』と『ダイバーシティ』（山口一男著）—性別によらず多様な個人が生き生きと生きられる社会とは—
- ◇参加費：無料
- ◇会場：お茶の水女子大学 共通講義棟2号館2階201室
- ◇主催：お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所
- ◇詳細：「女性活躍推進法」が成立し、日本でもダイバーシティ推進の重要性がますます高まっています。そもそも「ダイバーシティ」（Diversity）とはどのような概念なのでしょう。本講演会では、国際的に活躍する社会学者で Valuing Diversity を推進する山口一男教授を迎えて、「社会学者だからこそ書ける文学」として上梓された『ダイバーシティ』にこめられた思いをお話しいたします。
- ◇問合せ：お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 info-leader@cc.ocha.ac.jp

お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：德音塾

企業等で指導的立場に就くことを目指す女性を対象に、リーダーシップの養成とネットワークの構築を目的とした「お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：德音塾」を2014年5月に開講し、3期目を迎えています。2016年度は以下の6講座を開講します。

- 【春学期】 5月：女性のエンパワーメントとリーダーシップ（2016年5月7日、14日、21日、28日）
6月：異文化コミュニケーション／リーダーシップ（2016年6月4日、11日、18日、25日）
- 【秋学期】 9月：財務会計（2016年9月3日、10日、17日、24日）
11月：経営戦略／マーケティング（2016年11月5日、12日、19日、26日）
- 【冬学期】 1月：イノベーションとアントレプレナーシップ／CSRと情報開示（2017年1月7日、14日、21日、28日）
2月：企業と法律（2017年2月4日、11日、18日、25日）

※ 講座内容や申込方法、これまでの授業の様子などは、德音塾ホームページをご覧ください。
德音塾ホームページ <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/kiin/>

お茶大オープンキャンパス

- 6月11日（土） 高校教員等（高校・予備校）向けオープンキャンパス2016
- 7月16日（土）・17日（日）・18日（月祝） 学部オープンキャンパス2016

附属図書館からのご案内：文京区にお住まいの18歳以上の女性は附属図書館を利用いただけます。
詳しくは最寄りの区立図書館へお尋ねください。 <http://www.lib.ocha.ac.jp/bunkyoukumin.html>

国立大学法人 お茶の水女子大学

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

タナーレクチャー事務局

E-mail: tanner-info@cc.ocha.ac.jp

URL: www.ocha.ac.jp/tanner/

主催：タナー財団／お茶の水女子大学／運営：グローバルリーダーシップ研究所

Tanner Lectures *on Human Values*
THE UNIVERSITY OF UTAH

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

Special Tanner Lecture

- 21世紀の女性の生き方 -

5月18日（水）13:00-15:00

スペシャルタナーレクチャーにお運びくださいまして、まことに有難うございます。本学が、タナーレクチャーの日本で最初の開催校として選ばれましたことは、大変名誉なことと存じます。本講演会を通じて、社会の固定概念にとらわれずに女性がリーダーシップを発揮して、新しい日本の社会を創るための道筋を考えたいと思います。

本講演会が皆様にとりまして、実りあるものになります様に――。

国立大学法人 お茶の水女子大学長

室伏 きみ子



www.ocha.ac.jp/tanner/

女性：教育、生物学、能力およびリーダーシップ

受賞講演者：キャロル・ブラック氏



大英帝国勲章 (DBE) 受勲。王立内科医協会会長、王立医学アカデミー理事長などを歴任したのち、現在、王立内科医協会および英国医学院フェロー。ケンブリッジ大学ニューナム・カレッジ学長をつとめる傍ら、英国保健省および英国公衆衛生庁の衛生・労働専門委員として活躍する。設立を手がけたロンドンのロイヤル・フリー・ホスピタルの研究センターは、硬皮症等、結合組織の疾患の研究・治療で世界をリードする。

女性も男性と同等の教育を受けられるよう、2世紀にわたり女性と一部の男性が奮闘してきた。そのおかげで女性たちは高等教育の機会を得、それを身に付けるに留まらず、輝かしい成功を収め、自身が選択した分野で極めて優秀な成果を挙げるようになった。多種多様な専門分野と職業に参入し、家庭と仕事をバランスよくこなしている。こうした情勢を見れば、どのような課題が残されているのか疑問を持つ者があるかもしれない。

ここ数十年にわたり、男女共同参画を掲げた施策が実施され、推進機関や会議、委員会が活動してきたにもかかわらず、往々にして障壁が残っており、公平性に欠ける分野で成功を目指すとする女性は困難な課題に突き当たる。本講義では、女性が参入している数種の専門分野と職業を調査することにより、こうした障壁や課題を探る。

女性が選択をするとき、それが真に心からの選択であるか否かにかかわらず、自信や回復力の有無、完璧を目指すことの負担、およびリスクや失敗への恐れといった要素が影響を及ぼすが、今日の女性にとってそうした要素がどんな役割を果たすのかという点も合わせて、女性の選択について考える。このような要素は、人生のどれくらいの時期から影響を及ぼし始めるのであろうか。学生時代か、それとももっと後だろうか。本講義では個人的経験および同級生や友人の経験を中心に上げていくこととする。

私たちは皆、「いかなる理由で、何（誰）のために行動するのか(Who are we dancing for?)」ということをお問いたださなければならない。

『私の最初の功績はおそらく、家族の偏狭な期待に反抗したことだと思います。私は、生まれ故郷に住み続け、靴工場か靴販売店で働くことになっていました。でも、私にはもっと何かできるという強い信念がありました。』

『もちろん、悩み事もありますが、成功を望むならば、挫折から早く立ち直ることのできる回復力を鍛えなければなりません。』

『組織を率いる立場にある人がやるべきことは、全力で組織を導き、支援し、守ることであり、善いことが起きよう努力することです。』

『私の経歴においてもっとも重視したことは、挑戦し、リスクを負うことです。鏡をのぞいて、何も挑戦しなかったと気づくよりも、むしろ「やってみただけれど、うまくいかなかった」と言いたいのです。』

未来を担う若き友人たちへ

スペシャルゲスト：遠山敦子氏



21世紀は20世紀とは異なる世界規模の新たな困難が出現している。インターネットの加速度的な発達、人類の生命への脅威をもたらすIS、地球規模の気候異常などである。日本国内も少子高齢化、社会保障、格差、地方衰退、大自然災害など課題山積である。しかし、こうした課題の多さと困難さは、若い人たちに今後の活躍の場を開いているのだと私は捉えている。

日本は、これまで世界各国と比べて女性の社会参画が極めて遅れている国である。Economy, Education, Health, Politicsの諸データを総合して毎年作成されるジェンダー・ギャップ指数によれば、何と日本は現在145か国中101位である。日本の女性たちの高い潜在能力を考えると誠に残念である。他方、現安倍政権は、女性の輝く社会の実現を願って種々政策を展開している。今後は女性たちの社会的な活躍のチャンスは広がるであろうし、社会が女性の活躍を求めている。半世紀前、私が就職に苦心した頃に比べれば格段の前進である。

人は仕事を通じて成長する。人は自ら学び、考え、実行することで生きることの手応えを得る。人間として、社会のために役立ち、かつ、自らの人生を豊かにするためには、志の高さ、深い英知、熱い情熱と実行力がある。私自身の経験を交えながら、人としての生き方を皆さんと一緒に考えてみたい。

1962年東京大学法学部卒業後、文部省初の女性キャリアとして入省。高等教育局長、文化庁長官、駐トルコ共和国日本国大使、国立西洋美術館長を経て、2001年小泉内閣の文部科学大臣に就任。その後、新国立劇場運営財団理事を務めた。現在はトヨタ財団理事長、日本いけばな芸術協会会長など。著書に『トルコ 世紀のはざままで』『こう変わる学校 こう変わる大学』『来し方の記』ほか。

タナー・レクチャーについて

タナー・レクチャーは、アメリカの学者かつ実業家であり、また博愛主義者でもあったオバート・クラーク・タナー氏によって設立されました。タナー教授は、この講義が人類の知的かつ倫理的営みに貢献するだろうと思っています。さらにタナー教授は、本講義が人間の行動と価値についてのよりよい理解を求めるものとしています。このような理解は、この本質的価値を追い求めるものであるが、結果的には個人的また社会的な生活の質のための現実的な帰着をもたらすものです。本講義は、タナー夫妻（オバート氏および妻グレース氏）の個性や興味の正真正銘の現れであります。倫理的誠実さ、寛大さ、そして切実な同情、また平和と公共利益への懸念、思考と知識に対する責務、科学、芸術、人文科学に対する愛、そして人生に対する情熱の現れです。

タナー・レクチャーの目的は、「Human Value」に関連した学術的かつ科学的取り組みを推進し、かつ回想することにあります。この目的には、人間の認識、興味、行動、そして目的意識に関連したすべての価値が含まれます。

タナー・レクチャーの講演者は、「Human Value」の分野における際立った功績と傑出した能力が認められる方々です。講演者は、哲学、宗教学、人文科学、科学、創造的芸術、学問的職業（神学・法学・医学）もしくは公的または私的取り組みにおけるリーダーシップを発揮した方々の中から選出されます。講師の職は、国際的かつ異文化をまたぐものであり、民族、国家、宗教、また観念形態のすべてを超越して優れたものに与えられます。